2019年11月発行（年3回　3，7，11月発行）通巻128号

子どもたちの明日

Children, Our Future

2019年11月
128号

目次

・教育省の地域幼稚園スタンダードを学ぶ　1頁
・日本の絵本をクメール語に翻訳して出版します　2頁
・ロカカオンII公立幼稚園～13年がたって　4頁

一緒に学ぶ喜びにあふれる保育者たち

1

教育省の地域幼稚園スタンダードを学ぶ

8月27日から9月5日にかけて、コンポンチュナン州にある「村の幼稚園」の保育者と、同州の地域幼稚園の保育者を対象とした能力強化研修を実施しました。この研修は、昨年から導入された教育省による地域幼稚園のスタンダード認定制度について幼稚園の保育者や地区の女性と子供の福祉担当者が理解を深め、認定を得るための効果的な準備ができるようになることを目的としています。認定された幼稚園に対しては、保育者の給与が国の予算から支給され、また、常に一定のスタンダードを満たすような公的支援の枠組みに入れてもらえるため、地域が長期的に幼稚園を運営してゆく基盤が固まるのです。

子どもが楽しい遊びは先生も楽しい

研修でトレイナーを務めたのは、コンポンチュナン州の教育局幼児教育事務所長と、トレイナーとしての教育を受けて認定されたコアトレイナー4名です。このコアトレイナーたちは、日頃は州内の公立幼稚園の保育者研修を担当していますが、今回、当会から提案をして、「村の幼稚園」の保育者を対象とした「能力強化研修」が実現しました。せっかくの機会なので、当会からは地区の女性と子供の福祉担当者にも参加を依頼し、州の方からは同州内の他の地域幼稚園の保育者にも声をかけた結果、18名の保育者と6名の地区の女性と子供の福祉担当者が参加しました。地域幼稚園の保育者の中には、交通費などを自己負担してでも参加したい方もいました。これはカンボジアでは極めて異例のことで、保育者たちの強い参加意欲が感じられました。

10日間の研修内容は次のとおりです。

初日

登園時から帰宅するまでの間、クラス中も休憩中も、子どもたちの関心を引きつけながら、時間割にそってクラスを進めてゆく方法

2日目～

ゲーム・歌や学習の進め方、毎日の指導計画や実施の記録方法

5日目

5歳児の文字の認識度テスト方法

6日目～

教室内に備える教材や衛生・科学・音楽・絵等目的別のコーナー設置、地域幼稚園スタンダート33インジケータの説明と地区担当のサポート方法

最終日、メイントレイナーをつとめた州のスム・ソパクさんより、州内の就学前教育の現状と保育スキルや教材製作面の課題について講評がありました。参加した保育者には、研修で学んだことを実践に活かしていってほしいとの励ましの言葉と共に、修了証書が手渡されました。

参加者の感想をいくつかご紹介します。

「教え方の方法論、特に5つのステップを理解できました」

「この研修で、子どもがやる気になれる促しかた、管理的な仕事の仕方、言葉、運動、科学の教え方、毎日のプランの書き方を理解しました」

「子どもの教え方、良い先生としての振る舞い、興味や関心の薄い子どもへの働きかけ方がわかり、より多くの知識といい経験を得ました」

熱心にお互いの意見に耳を傾ける

「新しい教材もできたし、身振りのついた新しい歌も覚えたので、自分の幼稚園に帰ったら、もっと子どもと近くなれると期待しています」

「難しい内容もあったけれど、子どもたちが良い教育を受けた良いひとに育ち、地域の良い人材になるようベストを尽くします」

「研修中、より多くの知識を得ただけでなく、異なる地域から参加した保育者とそれぞれの経験を分かち合い、交流することができ、これからも話せる友だちになれました」

「他にも研修があれば、もっと指導方法を学びたいので、参加させて下さい」

能力強化研修は、今年初めて実施した研修会でしたが、地区の女性と子供の福祉担当者の参加は、期待以上の成果がありました。幼稚園の保育者に指導し、保育の質の向上を支援するのが自分たちの役割だとは自覚しているものの、実際に何を指導してよいかわからないでいたので、他にも仕事があることを理由に、モニタリングに消極的だったことを認めた上で、研修によって目指すものが明確になったので、今後は自信をもって幼稚園に足を運び、保育者の力になりたいという言葉が聞かれました。

このように、成功に終わった研修会でしたが、反省点としては、参加した保育者たちのレベルがばらばらであったこと、会場が手狭だったことが指摘されました。その点は検討しながら、研修効果がたくさん見られたことから、コンポンチュナン州の教育局からは今回参加しなかった残りの地域幼稚園の保育者に対しても研修を実施したいとの要望が寄せられています。

当会では、今後の「村の幼稚園」のモニタリングの中で、能力強化研修で学んだ成果がどのように現れているか、時間と共に効果や記憶が薄れてゆく研修内容はないか等を継続的に注視して、これから、同様の研修を実施する際に役立ててゆくつもりです。

2 日本の絵本をクメール語に翻訳して出版します

カンボジアの村の子どもたちの生活環境には、自然が豊かで自由に遊べる広いスペースがいっぱいです。にわとりや豚や牛などの家畜も身近にいます。田舎の一般的な家の中には色が少なく、家具もほとんどありません。一日のほとんどを高床式の家の一階（外）で過ごします。

村では、活字は見当たらず、絵本はもちろんありません。幼稚園にはあっても数冊だけです。子どもたちは絵本が大好きです。先生から絵本のお話を聞くのをとても楽しみにしています。長年カンボジアに赴任していた保育専門家の山極理事は、次のように話しています。「ある幼稚園の先生が、一冊の絵本の絵と文字をコピー用紙に写して色鉛筆で色を塗ったものを集まりの時間に子どもたちに見せながら読んでいました。熱心な先生だと思いました。忘れられない光景として、今でも

（左）昨年、試しに絵本を読み聞かせたところ、大好評　プレイタトウ村幼稚園　（右）『およぐ』と『まめ』のクメール語版絵本

良く覚えています。」2008 年ごろは、政府の幼児教育の予算はほとんどなく、5 歳児の子ども一人当たりの年間予算が 1.5 ドル（約 160 円）でしたから無理もありません。こんな現状の中、少しでも多くの絵本を子どもたちに見てもらいたいと新しい翻訳絵本の配布事業を準備してきました。

幼い難民を考える会（CYR）が初めてクメール語の絵本 11 冊を印刷したのは、ユネスコアジア文化センターの蔵書にあったクメール語で書かれた絵本を復刻して難民キャンプの子どもたちが見られるようにした時です。その後、CYR で製作した絵本 10 冊の中には、カンボジアの絵本作家が難民キャンプで書き下ろした絵本やカンボジア人の画家に身近な動物や果物、乗り物、道具などを描いてもらった「小さな絵本」4 冊があります。

日本語で出版されている絵本をクメール語に翻訳して出版することもしてきました。

『ははははのはなし』『しっぽのはたらき』『みんなうんち』『ほね』『いやだいやだ』『ねないこだれだ』などです。そして今年は福音館書店の 4 冊の絵本を出版することができました。『まめ』『およぐ』『ばななのはなし』『みんなおなじ　でもみんなちがう』の 4 冊です。これらのクメール語翻訳出版事業では、長年にわたり東京外国語大学のカンボジア語専攻の学生の方が翻訳し、先生方に監修をしていただいて、実施することができました。今回も、東京外国語大学カンボジア語研究室や小林凌さん、岡野朱里さんが翻訳してくださいました。

今年出版する 4 冊を選んだのは、科学的な情報が非常に不足しているカンボジアでまだまだ生活の中で迷信を信じている人も多く、かがくのとも絵本からカンボジアの子どもたちの生活にもとけこめる内容のものを選びました。

『まめ』

市場に行くととても大きな米袋に、いろいろな種類の豆が分けられて売られています。豆は料理やお菓子にもたくさん使用する身近な食べ物です。知っている豆も見たことのない豆もあるけど楽しい、子どもが身近に感じられる教材です。

『およぐ』

村では、雨季に土砂降りの雨が降ると子どもたちはいっせいに裸で外に飛び出して喜んで雨と戯れます。川があれば夢中で泳ぐし、どろんこのような色の池でも夢中になって遊びます。「およぐ」の絵と文そのままの楽しみです。

『ばななのはなし』

カンボジアでは、バナナほど身近な果物はありません。村に行ってもバナナの木は必ずありますし、種類も多いです。煮たり揚げたりもします。バナナの花はサラダにも使われますし、バナナの葉は食べ物を包んだり、もち米を包んで蒸したりもします。市場でも一番安く買える果物です。幼稚園でもよく使われるおやつです。そのバナナから学ぶことがたくさんあることがこの本の魅力です。

『みんなおなじ　でも　みんなちがう』

観察することは大切だよ、と楽しく教えてくれます。使われている絵には、なじみのないものもありますが、ゲーム感覚で楽しんで見ることができます。子どもたちひとり一人もみんな違っていることの大切さに気がつけたらという期待もあります。

コンポンチュナン州の「村の幼稚園」と同じ郡にある公立幼稚園で使えるよう、研修をして提供します。ゆうちょ財団、個人会員 3 名のご支援で、絵本の出版と研修が実現しました。

③ ロカカオンⅡ公立幼稚園 ～ 13 年がたって

幼い難民を考える会（CYR）は、限られた人材と資金でどのようにしてより多くの子どもたちが保育施設に通えるようになるのか、質の高い保育を受けられるようにできるか、様々な可能性を検討し事業を実施してきました。いちから園舎を建設して保育者を研修するやり方以外に、既に保育者と教室がある幼稚園に足りないものを補って、よりよい保育が提供できるように行った支援もあります。そのケースとして、2003 年からプノンペンのスラム地域に 6 ヶ所の保育所を再開・新設し、運営を現地の NGO と一緒に行ってきました。また 2004 年からは、カンダール州の公立幼稚園をくまなく見て歩き、保育者からの要請があった保育教材の提供や保育研修などを州の幼児教育事務所と実施しました。4 年間で通算 40 回 277 クラス、355 名の保育者を対象に遊具教材の目的と使い方の説明・実技指導を行いました。また、州の教育局から要請があり、44 ヶ所の公立幼稚園に木製外遊具を提供した際には、工事は州の教育局が地域の建設グループを選定し、州の監督のもと、CYR の設計どおりの外遊具が製作されました。

こうした教材研修や外遊具設置を行った公立幼稚園のひとつが小学校の中にあるロカカオンⅡ幼稚園です。

ロカカオンⅡ幼稚園で当時使われていた園舎は村人が資金を出し合って建てたもので窓がなく、雨季には雨が降り込んで床がぬかるみ、保育が出来ない状況でした。カンダール州教育局から改築工事の強い要請があり、幸運にも幼稚園建設を支援してくださるという個人寄附者がおり、旧園舎を解体し、2006 年に 1 棟 2 教室の園舎を建てることができました。校長兼任の園長先生が地元の建設グループに工事を依頼し、雨季でも快適に使用できる窓付きの教室が、4 歳児 5 歳児クラスとして使用できるようになったのでした。すべり台、ブランコ、シーソーの外遊具も設置されました。

今年、13 年前に園舎と外遊具の費用をご寄附いただいた方から、CYR の東京事務所にお電話がありました。家の片づけをしていたら、ロカカオンⅡ幼稚園の報告写真が出てきて、その後どうなっているか気になって、ご連絡を下さったのです。これを受けて、チャン・スレイ事務所長が訪れたロカカオンⅡ幼稚園は、子どもたちの元気な歌声と踊りで活気に満ちていました。しかし園舎は、ペンキが剥がれ、木製のすべり台は壊れていました。当時の女性の校長先生は既に

子どもが大好きなすべり台は壊れ、板が外されていた

退職され、当時副校長だった男性の先生が校長先生となっておられ、当会のことは良く覚えていてくれました。現在の様子を写真と動画に収めてお知らせしたところ、修復のために追加のご寄附を頂戴しました。その方のご厚意により、園舎の壁面を綺麗に塗装しなおし、すべり台などの外遊具も新しくなった上に、トイレも建設することができ、校長先生から感激に満ちたお礼のメッセージがプノンペン事務所に寄せられました。多くの温かいご支援が、年月を経てもなお、カンボジアの貧しい地域の幼稚園、子どもや先生たちの間で生き続けていることを実感しています。

CYR 情報

寄付金控除証明書の送付

現在、東京都の NPO 法人認定更新を申請中です。
2019 年中のご寄附は、12 月 15 日までにお願いします。

寄付金控除証明書の発送は、1 月下旬を予定しています。
お手元に届くまでもうしばらくお待ちください。

会費お振込み・活動へのご支援は、下記までお願いいたします。

郵便振替　00110-8-36227
三菱 UFJ 銀行　六本木支店（普通）1351747
特定非営利活動法人幼い難民を考える会

子どもたちの明日 128 号
発行日：2019 年 11 月 30 日　発行者：牛場 輝夫

特定非営利活動法人幼い難民を考える会

東京事務所（CYR）
〒110-0016　東京都台東区台東 1-12-11 青木ビル 2A
TEL: 03-6803-2015　FAX: 03-6803-2016
Email: info@cyr.or.jp　URL: http://www.cyr.or.jp/

プノンペン事務所（CYK）
#170, St.63, Boeung Keng Kang I, Khan Chamkarmorn,
Phnom Penh, Cambodia
TEL: (+855) 23 210849　FAX: (+855) 23 210849
Email: info@cyk.org.kh
URL: http://www.caringforyoungkhmer.org/

幼い難民を考える会（CYR）は認定 NPO 法人です。
ご寄付は税制優遇措置の対象となります。